

栃事研会報

第61号

栃木県公立小中学校事務職員研究協議会

編集発行人 大野道久

主 な 内 容

研究大会を終了して……………	1
栃事研セミナー報告……………	2
栃事研セミナーアンケート……………	3
表彰について……………	4
関プロ東京大会について……………	5
編集後記等……………	6

研究大会を終了して

栃事研会長 大野道久

私ども栃事研の活動も、いよいよ大詰めになってまいりました。先日、12月2日の学校事務研究大会では、事務職員の義務教育費国庫負担制度削減問題を取り出されている中、研究テーマ「創造しよう！新たな教育に資する学校事務を」を掲げ、サブテーマに「変わらないもの 変わるもの あるべき姿を求めて」と題し、研究大会を開催いたしました。お陰様で大勢の皆様にご参加いただき、盛会裡に終了することができましたことは、栃木県教育委員会をはじめ、真岡市教育委員会、栃木県小・中学校長会等多くの教育関係諸機関のご理解とご指導・ご支援に深く感謝申し上げます。

全体会では、文部科学省角田喜彦様による行政説明、研究部による「学校事務のモデルチェンジ」と題しての研究提案は、教育改革・制度改革が展開されていく現状を考えたとき、時宜を得た提案であり、平成18年度に予定されている公務員制度改革に向けて、これから学校事務職員に求められる役割や学校事務の新たな組織化の必要性等について、共通理解を図る有意義な研修の場となったものと思います。参加された事務職員一人ひとりに、今行動する重要性が認識されたものと信じております。

1月7日には、栃事研セミナーを開催いたしました。年度当初の計画にはなかった事業ですが、平成13年度から実施されている第7次定数配置改善計画に伴う加配を受けての共同実施も本年度10地区で実践研究に取り組んでおり、事務職員の加配制度の定着と新たな事務組織のあり方や共同実施の具体的な内容についての継続研究をより推進するため、講師に姫路工業大学の清原正義先生を招聘し実施したところです。冬休み中にも関わらず300余名のご参加をいただき、今後の事務職員制度のあり方について活発な協議を重ねることができ、意義ある研修の場を設定できたものと各支部のご協力に感謝申し上げます。

今、教育機構改革が急激に進められておりますが、その改革の柱は学校のマネジメントであり、学校のアカウンタビリティが求められているものと思います。私たちは、今こそ事務職員が学校に在る必要性、その存在意義をアピールすることが大切であり、学校経営に積極的に参画するための資質の向上を図ることが重要と捉えております。平成18年度に予定されている公務員制度の見直しまでの2年間、どう取り組んできたかが、評価される大切な時期になりました。解決すべき課題は山積しておりますが関係機関と連携し精一杯努力しますので皆様のご理解・ご支援を宜しくお願いいたします。

平成15年度

学校事務研究大会開催される

平成15年12月2日(火)、穏やかな陽光に包まれ真岡市民会館を会場に、平成15年度栃木県公立小中学校事務研究大会が、県内外から約500名の参加をいただき開催されました。会場につきましては、真岡市教育委員会の格別のご配慮をいただき隣接の公民館も含め、ゆったりとした施設の中の大会となりました。

今年度からの大会テーマ「創造しよう！新たな教育に資する学校事務を」のもと、サブテーマを「変わらないもの 変わるもの あるべき姿を求めて」とし、社会情勢の中で変革を求められる学校、その中で学校事務職員はどうあるべきかを考える有意義な大会となりました。

文部科学省初等中等教育企画局課長補佐 角田喜彦様からは、「教育の質向上を実現する学校マネジメント」と題し、学校全体を俯瞰し、学校のマネジメントを改善していく学校事務職員へ、と私たちに熱い期待が語られました。義務教育費国庫負担制度に関わり、時宜に合った情報も加えていただき参加した会員多くから好評を得ました。

調査部・研修部活動状況報告においては、部の報告だけでなく標準的職務表を意識した取り組みとして、鹿沼市学校事務職員研究会長 三塚研三事務長様から実践事例報告をいただきました。

最後に、平成16年1月29日～30日、池袋・芸術劇場を中心に開催される関プロ東京大会で提案を行う研究部より、「学校事務のモデルチェンジ～積極的な教育支援をめざして～」と題して、提案がなされました。教育改革に対応した学校づくりを事務部として推進していくために、財務・情報管理などにおいて法的条件整備が不可欠であること、それだけでなく私たち学校事務職員が「積極的な教育支援」をめざし、意識を変革していく必要性が語られ、熱心な協議がなされました。

今大会の運営に関しまして、ご協力いただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。



栃事研セミナー 開催される！

栃事研として、初の試みである「栃事研セミナー」が、新年早々の1月7日（水）に宇都宮市のプラザインくるかみにおいて、開催されました。セミナー開催の主な目的は、次のとおりです。

- 事務の共同実施についての理解を深める。
- 栃事研としての取組について理解を得る。
- 問題点を把握し、今後の方向性を考える。

栃事研セミナー開催要項

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 講 話
演題「共同実施の現状と課題」
講師 姫路工業大学環境人間学部
教授 清原正義氏
- 4 研究協議
(1)共同実施10地区の共通の課題
栃事研事務局長 樋口良広
(2)会場からの質疑
(3)栃事研のこれからの取組
栃事研副会長 吉江琢也
(4)講 評
- 5 謝 辞
- 6 閉 会

【講話】では最初に、義務教育費国庫負担金の「総額裁量制」について触れ、定数問題等に対し、より一層学校事務の在り方をしっかり考えなければならない、とのお話をされました。続いて、平成16年度からの国立大学の独立行政法人化および平成18年度からの公務員制度改革についての説明がありました。特に今後急速に〔給与体系の見直し＝業績評価，能力評価〕が、全国的に広がるであろうとの考えを述べられました。そしてそれに伴い、学校事務職員の〔学校経営への参画〕が、今後益々重要になると指摘をされました。

次にいよいよ共同実施のお話です。初めに、共同実施の意義と効果についての説明をされました。現在、全国で720名の共同実施による加配がな

されているが、その成果として『事務職員を加配すると学校がこれだけ良くなる、これだけ変わる』ということを実証し、アピールしなければならないことを強調され、そして、第8次定数改善につなげていくようにと御指導がありました。続いて、共同実施の方法・形態について具体的に6つの形を示し、詳細な解説がなされました。

最後に共同実施の今後の課題として、次の5つを挙げられ講話を終了されました。

- 教育委員会との連携・協力
- 規定整備(運営要綱等)と制度化(権限委譲等)
- 事務処理の効率化と学校経営への参画
- 学校事務の条件整備
- 加配なしの共同実施



休憩後【研究協議】に移りました。最初に樋口事務局長から、午前中に行われた共同実施連絡協議会の状況説明がありました。共同実施10地区の共通の課題として 教育支援の具体的中身 事務職員主導での共同実施の限界 定数削減につながる恐れ等について報告され、それぞれ清原先生から御指導をいただきました。その後の会場からの質疑に対しても、先生から丁寧な回答をいただきました。続いて吉江副会長が、栃事研のこれからの取組について説明を行いました。その中で、特にこれからの2年間の取組が、我々学校事務職員の未来像に大きくかわるといってお話でした。

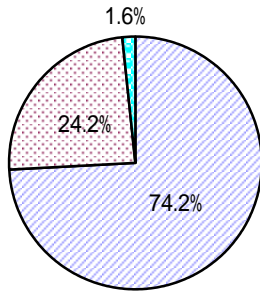
最後に清原先生から、これまで以上に積極的な学校経営への参画を期待する、という講評をいただき、閉会となりました。

以上、概要についてお知らせいたします。多数のご参加をいただき大変ありがとうございました。

栃事研セミナー アンケート集計

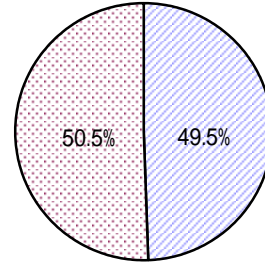
実施日 平成16年1月7日(水) 場所 プラザイン くるかみ
 参加人数 246名 アンケート回収率 186名 75.6%
 グラフエリア下の記述については、主なご意見等を掲載させて頂きました。

1 開催期日について



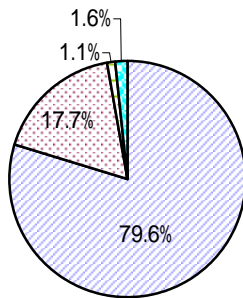
- ・夏季休業中も含め、長期休業中が適当と思う。
- ・始業式前日の開催は、さけてほしい。
- ・他の研究大会等の日程も考慮し、開催してほしい。

2 会場について



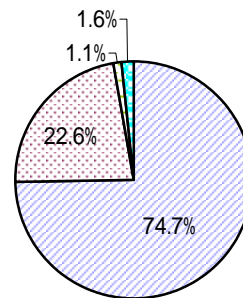
- ・会場内は快適であったが、駐車場の確保が問題
- ・事前に駐車場の案内を連絡してほしい。
- ・県中心部での開催がよい。(どの地区から来る場合も)

3 今回のテーマ(共同実施)について



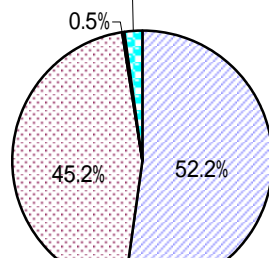
- ・清原先生のお話が、分かりやすく大変参考になった。
- ・加配の有無にかかわらず、共同実施への取組みが重要であることが理解できた。

4 セミナー全体の内容について



- ・個人レベルだけではなく、学校事務全体のレベルアップを図ることが大切だということがよく分かった。
- ・共同実施10地区の発表等を直接聞きたかった。

5 今後の開催希望について



- ・情勢の変化が大きい時期なので、とりあえず数年は、毎年開催してほしい。
- ・毎年開催ということではなく、必要に応じてタイムリーにお願いしたい。
- ・毎年開催するように決めてしまうと、マンネリ化する恐れがあると思う。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

(*^ - ^)v
Thanks!!

おめでとうございます

平成15年度全事研功労者として

真岡市立真岡西小学校事務長 豊田 功様

平成15年度模範教職員として

藤原町立藤原中学校事務長 野村サチ子様

栃木市立栃木第一小学校事務長 谷藤 朝雄様

足利市立第二中学校事務長 五月女 稔様

以上の方々が、卓越した御見識と数々の御功績により、栃木県教育委員会から表彰されました。

栃事研からも平成15年度栃木県公立小中学校事務研究大会において、記念品の贈呈が行われました。その栄誉を称え心からお祝い申し上げます。

感謝

真岡西小学校 豊田 功

今年は例年になく冷夏であった。しかし、8月6日の山口県萩市は暑かった。でも表彰式に臨んだステージでは緊張のあまり全く暑さを忘れておりました。事前に連絡があり受賞者を代表して謝辞を述べることになっていたからでした。

当日の謝辞の中でも「それぞれの支部の皆様のおたかな御理解と御支援の賜です」と申しあげましたように、栃事研の皆様には御世話になりっ放しであります。芳賀支部から推薦をいただき栃事研の執行部に入り6年間、620余名の会員と「会員総ぐるみ」を合い言葉に栃事研の諸活動に取り組んでまいりました。平成10年度には第31回の関プロ主管支部として全会員の協力で他県の多くの仲間を温かく迎えることができたのであります。これはほんの一例ですけれどもすべてが栃事研会員の皆様の実績をそのまま私が評価していただいたようなものであります。従って、この度の受賞は栃事研の皆さんからのプレゼントだと理解をしております。

在職期間もあと数年ございますので芳賀支部の皆様へ更には栃事研の皆様へ何かのかたちで「恩返しができるいいなあ」と思っているところで

ございます。

本当にありがとうございました。

平成15年度

栃木県模範教育関係職員表彰をうけて

藤原町立藤原中学校 野村 サチ子

この度身に余る賞を頂き、大変恐縮しております。これまで御指導くださいました栃事研の皆様や多くの方々に、あらためて感謝申し上げます。学校事務職員として、児童生徒の教育活動に少しでも役立つ仕事をしていきたいと思っています。

栃木市立栃木第一小学校 谷藤 朝雄

教育改革の真只中、児童・生徒を取り巻く環境は著しく変化し、教育現場へのニーズも多様化しています。今回の『模範教職員』受賞を励みに、学校の自主・自律と教育支援に柔軟に対応できる事務職員として自己研鑽に努めたいと思います。



足利市立第二中学校 五月女 稔

思いもかけない今回の表彰、11月7日（金）午前11時より栃木県公館にて受賞いたしました。模範となるようなことは何ひとつ持ち合わせておりませんが、足利市の事務職員の代表としてと考えています。まだまだ未熟者ではございますが、今後とも御指導下さいますようお願いいたします。

関ブロ発表を終えて

研究部長 益子周二

関ブロ東京大会から早二週間が過ぎました。研究内容に先行して設定したテーマの「モデルチェンジ」や「教育支援」という言葉を具体化するのに苦労したことが思い出されます。

現在、年ごとに厳しくなる国庫負担除外の問題、平成18年度の公務員制度改革など、私たち学校事務職員には、先行き不透明な厳しい状況があります。しかし、学校には事務が存在し、担当する職員は絶対に必要です。それが、パート職やアウトソーシングになってしまえば、教育サービスの低下になってしまいます。そうならないためには、私たち事務職員が力量を発揮できる法的整備も必要ですし、何より事務職員が積極的な教育支援をとおして学校経営・運営になくてはならない働きをすることが重要だと思うのです。今回の提案は、それを呼びかける内容でもありました。

振り返れば、私の担当である項立てがなかなか定まらず、執行部の方々や部員の面々も、やきもきしたと思います。しかし、ひとたび方向が定まると、それぞれ個性の集まりであった部員が一丸となり、完成の一点を目指して突き進みました。すばらしい頑張りでした。収録原稿、発表・司会原稿、プレゼンテーション等の作成をとおし、研究部員としての力量を身につけて行きました。

研究部は、大会があると大変だからなり手が無いという話を耳にします。確かに、一つの仕事を成し遂げるには、それが大きければ大きいほど困難も多いでしょう。不慣れな部長が据えられているのは、なおさらです。しかし、得られる収穫もまた大きいはずです。部員達は成し遂げました。そして、かけがえのない大きな収穫を得てくれました。私はそう思っています。それは、今後の活動に必ず役立ちます。

最後に今回の提案をまとめるに当たり、合同で検討いただいた研修部、原稿等を点検いただいた執行部の方々、その他協力をいただいた方々に感謝申し上げ、感想に代えさせていただきます。

関ブロ大会に参加して

櫻井幸男

芳賀郡事務長会の学校事務実情調査に参加する形で今回の関ブロ大会に参加しました。

まず最初に感心したのは全て事前受付という形態でした。とは言っても当日受付もやっているのだろうと言う思惑で会場に行ったのですが、当てがはずれました。しかも受付順に指定席、早かった事もあり前から2列目でした。おかげで研修意欲も沸き、一日目は危機迫る「義務教育費国庫負担法」関係の話題を真剣に受け止めることができました。2日目は昨日の失敗はしまいと、受付時間後半に会場に入ったのですが、期待は裏切られ自由席でした。

今回印象に残ったのは行政説明で、前川文科省財務課長さんの時間を延長してまで話して下さった「義務教育費国庫負担制度廃止法案」の国会成立といった冗談話でした。「義務教育費国庫負担制度の行く末が、本当に近い将来こうなってしまうんだよ。」と言いたかったのではないのかと……

関東地区学校事務研究大会に参加して

日光市立清滝小学校 渡邊鈴子

東京での開催、また第2期冬季休業中ということもあり、久しぶりに関ブロへ参加することができた。東京芸術劇場のパイプオルガンの荘厳な音色に迎えられ「考えよう！切り開こう！学校事務の新たな展開を！」のテーマで、研究大会が開始され、文科省行政説明、パネルディスカッションによる研究全体会となる。パネラーの日本証券代行株式会社遠藤氏による阪神大震災の被災体験からの危機管理上の学校スタッフ機能のあり方についての話は印象深かった。2日目は第1分科会に参加。講演は東京都教委総務課人事係・東京都公立小学校長会副会長の2講師による講演だった。

1月の末にしては比較的暖かな陽気だったが、私の耳に飛び込んでくる話はとても冷たく厳しかった。予想はしていたが、自分の職の危機感をひしひしと感じた。自己意識を変え、これまでの自分を見直さなければいけない状況にきていることをさらに痛感した2日間だった。



ゴルフ大会の報告

第5回栃事研ゴルフ大会

・期 日	平成15年8月1日(金)		
・場 所	宇都宮カンツリークラブ		
・参加者数	40名(OB3名)		
・主な結果	個人の部(敬称略)	ベストグロス	青木 雅明 85ストローク
		優 勝	吉江 琢也 ネット 70.8
		準 優 勝	青木 雅明 " 73.0
		3 位	前澤 守治 " 75.0
団体の部		優 勝	河内 支部 285ストローク
		準 優 勝	上都賀支部 288 " (年齢差)
		3 位	那須支部 288 "

ご協力大変ありがとうございました。結果の詳細は各支部の理事さんにお聞き下さい。なお、この大会の申し合わせの中に優勝支部が次回の大会を主幹するということがありますが、今後、主幹を事務局または、各支部持ち回りで行う等々を検討していかなければこれからの開催が危ぶまれるように感じます。

(安足支部 五月女 稔)

栃事研からのお知らせ

- 平成16年度栃事研研修会並びに総会
期 日 平成16年5月27日(木)
会 場 宇都宮市文化会館小ホール
- 栃木県公立小・中学校事務研究大会
期 日 平成16年11月5日(金)
会 場 佐野市文化会館
- 第36回全国公立小中学校事務研究大会(高知大会)
期 日 平成16年7月28日(水)~30(金)
会 場 高知市 高知県民体育館 他
テーマ 子どもの豊かな育ちを支援する学校事務
一つなげて ひろげて いきいきと 土佐から発信 学びの輪一
- 第37回関東地区学校事務研究大会(千葉大会)
期 日 平成17年1月27日(木)~28日(金)
会 場 千葉文化会館 他
テーマ とともに創ろう!新しい時代をきり拓く、学校事務を一主体的な学校事務の創造一
- 栃事研ホームページにアクセスを!
新規情報掲示板やデータ&フォーム集など、職務に役立つ最新情報が随時更新されています。
会員の皆様からのアクセス、情報提供をお待ちしています。
アドレス <http://www.fsinet.or.jp/~tochigi.ji>

編集後記

体育集会で走る子どもたちのマラソンカードを貰って、最近とみに運動不足とたるみが気になる女性陣で、夕方、校庭を走り始めた。一人で走るには気恥ずかしいし、根性もなくなりそう・・・というわけで、集団で走っているのだが、これが妙に目立つらしい。

「先生～、何で走っているのお?」と、三階の窓から吹奏楽部の女の子たち。「美容と健康!」両手をあげて答えると、「まだ、だいじょうぶ!」うう、なけるわ。

外に出ると夕方の風は、ずいぶんと暖かくなり、夕焼けの色もすっかり春色になっている。空に残る夕日を見ながら、また春になって学校の1年が終わるのだなと思いつつ、さあ、きょうも走ってくるか!